



人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書 7章12節

2022年
創立144年

2022年(令和4年)
3月16日
第18号

梅花女子大学

チャペル・ニュース

Chapel News

発行

梅花女子大学宗教部
〒567-8578
茨木市宿久庄2-19-5
072-643-6221(代)
072-643-8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館1階

〈創立144周年記念礼拝奨励より〉
「老人は夢を見、若者は幻を見る」

梅花学園学園長 近藤 十郎



ヨエル書3章1〜5節

はじめに

今は昔、144年前の澤山先生は、一体どのような夢を見ておられたのでしょうか。澤山先生は、ご自分の見た夢を彼のその後の人生の歩みの中で、どのように実現しようと考えておられたのでしょうか。私たちは今、梅花の幹に連なる枝として、澤山先生が見られた夢の意味をどのようにに捉え、受け継ごうとしているのでしょうか。

澤山先生が、梅花女学校の創設という課題に関心を持たれるようになったのは、知られている限りでは1877(明治10)年、10月24日、梅本町公会、浪花公会の会員と共に女学校設立について相談されたことが濫觴となつているようです。18

78(明治11)年、1月7日には、土佐堀にて開校式が行われました。生徒数15名、教師は成瀬仁蔵、小泉敦、ステューブンスといった人々でした。その時の開校式で成瀬が語った「愛なる女学校」という言葉が、今日に至るまで梅花の建学の精神を象徴的に表すメッセージになっていることは、私たちにとっては今や自明なものとなっています。大阪府庁への届け出は、開校式の11日後、1月18日のこと、初代校長は小泉敦で澤山先生ではありませんでした。キリスト教に対して必ずしも好意的でなかったと言われる当時の為政者たちにとつては、牧師澤山が校長では都合が悪い、と受け止められたのでしょうか。

夢と幻の話

さて、「老人は夢を見、若者は幻を見る」という聖書の言葉です。旧約聖書の預言者ヨエルの預言としてよく知られた御言葉です。「その後、わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る」と語られています。新約聖書の使徒言

行録では、ペンテコステの出来事の中で、ペトロがこのヨエルの預言を引用して、新しい時代の幕開けを語っています。「終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人たちは夢を見る」(使徒言行録2章17節)というわけですね。「終わりの時」というのは、終末の時、という意味ですが、聖書での終わりの時、終末というのは、神様の救いの歴史、救済史(Hilfsgeschichte)が完成、成就する時、という意味で用いられています。その時になると、息子たちも娘たちも、だれでも神様の霊、スピリットを注がれて、語るべき言葉を語り、伝えるべき真理を的確に伝えることができるというわけです。旧約の預言者ヨエルと新約のペトロでは、若者と老人が逆転しています。若者が、いずれにしても、老人が夢を見、若者が幻を見ることができるときが来る、今がまさにその時である、と約束しています。

多くの場合、私たちの認識では、夢も幻も儂いもの、実現不可能なもの、目が覚めてみれば雲散霧消してしまふもの、という意味合いで受け止められがちです。しかし、聖書の人々の認識は、私たちの認識とは明らかに違っています。「夢幻のごとく」といった意味合いでは必ずしも用いられていません。英語の夢はドリーム(Dream)、幻はヴィジョン

(vision)ですが、明らかにこの二つの言葉には日本語のニュアンスとは異なった、積極的、肯定的、チャレンジングな意味合いがこめられていることがわかります。ヘブライ語のヨエルのテキストでは、夢はハローム、幻はハーゾーンですが、二つとも、だれでもそれを信ずる者たちにとつては、全身を傾けてでもそれに挑戦する勇氣と信仰があれば、実現可能なもの、フエイクではなく、リアリティそのものになりうるという意味合いで捉えられています。澤山先生はもちろんのこと、彼の祈りに共感した私たちの先達たちは、「愛なる女学校」の教育、愛の精神、愛の原理に基づいた教育、とりわけ隣人愛と奉仕の精神にもとづいた女子教育をもって、新しい日本の歴史を實現させる基本理念として立ち上げ、そのような夢を見、幻を見たのではないのでしょうか。自分たちが見た夢と幻、ドリームとヴィジョンが、必ずや歴史の中に実現するという信仰、確固たる信念こそ、創立以来今日に至るまで144年を経て、間もなくにして150年目の節目を迎えようとする梅花の歴史の中で貫かれた基本的な精神であったと、改めて思い知らされます。今、梅花の新しい歴史に招かれた者として、私たちは光榮ある使命と責任を、これらの先達たちから受け継いでいるのです。

— 中村哲医師の場合

中村哲先生。12月4日が彼の命日

でした。2019年のその日、彼の命は銃弾で儂くも、そして無情にも失われました。享年73歳。まだまだ彼の活力は失われることなく、アフガンの未来のためには、し残した働きも無限にあり、期待されることも多かつたことと思います。彼の働きを記念して、テレビのドキュメンタリーも何回か繰り返され、書物や映像での紹介もなされています。彼の見た夢はどのような夢だったのでしようか。彼がなした働きは、広漠たる不毛の荒地、砂漠化した大地に水路を開き、緑の牧場に変えること、一面茶褐色に彩られた不毛の地を豊かに彩られた緑地に変えるということでした。現実の世界は不毛の荒地でしたが、彼の心の視覚で見た映像にはすでに、厳しい現実とはまったく異なった緑の世界が鮮やかに映し出されていたに違いありません。白衣を脱ぎ捨てて汗と埃にまみれた作業着に着替え、注射器の代わりにシヨベルカーやその他の重機のハンドルを握り、地元の人々と共に水路を切り開く作業に従事しておられる姿は、ドキュメンタリーに映し出されたたくましい彼の表情を確かめるまでもなく、実に崇高で光り輝いていました。うち続く大干魃によって離農せざるを得なかつた人々、戦乱の中で居場所を失つた65

万にも及ぶ人々の命を支える水路、全長27キロにも及ぶ水路を切り開き、命の水を人々に提供することができました。黄金色に輝く広々とした麦畑、果樹の実り、嬉々として水を浴びる子どもたちの姿、映像に映し出された世界は平和そのものの世界でした。子どもたちに食べ物を与えるために、やむを得ずテロリストたちの軍団に傭兵として加わらざるを得なかつた農民たちの悲しげな顔と、家族揃つて収穫の喜びに溢れる笑顔とは、まったく対照的でした。73歳という年齢は、彼にとつてはまだまだこれからの彼の人生途上ほんの始まりの部分に過ぎなかつたかもしれませぬ。彼の命が、かくも儂く凶弾のために奪われたことに、「主よ、一体なぜ」と叫んだ人々は数知れないと思います。とても心が痛みます。

先頃知らされたニュースでは、あの忌まわしい事件からまだ1週間も時を置かず、中村先生の働きを受け継ぐ人々によつて、作業が再開された、ということでした。地元の人々は、中村先生に対して、「どうせ、あなた方の働きは気まぐれで、そのうちにおしまひになるのでは」と言っていました。先生は、「そんなことは絶対ありません。私の命は限られているかもしれませんが、私たちの仕事は、これからもずっと続きます」と答えておられました。

ご存じのように、彼の働きを支えるNPO法人は「ベシヤワール会」と言いますが、その活動は今もなお止むことなく続いているということ。心が和らぎました。私も何かできることはないかと考え、先頃、ベシヤワール会に連絡を取つて、維持会員の一人になるべく、会員名簿に登録させていただきます。先日79歳の誕生日を迎えましたので、現地にボランティアとして出かけるには、少々年を取り過ぎています。実際に様々なたちで奉仕しておられる方々の見る夢のほんの一部ではあつても、その夢を共に見ることができればと願っているこの頃です。

— 今、どのような夢を見るのか

コロナ禍のもとにあつて、世界中が混乱と不安にあえぐ時代を私たちは迎えています。このような厳しい時代にあつて、今更どんな夢を見、どんな幻を見ることができるといふのかと、多少もどかしい思いもしないでもありません。しかし考えてみますと、どの時代にもその形と内容には多少の違いはあつても、暗さと困難を避けることはできなかつたとも言えるでしょう。澤山先生の生涯はわずかに34年に過ぎませぬでした。数々の困難が彼の身を襲いました。自給自立の女学校を、という基本姿勢を貫こうとしたがために、他

の同時代の女学校にまして、この女学校を存続させるための労苦は嫌が応にも増し加えられました。しかし、澤山先生は耐えがたい病苦にさいなまれながらも、自らの夢と幻を実現に至らせるために祈り、命をすり減らしてまで、その実現のために力を尽くしました。そのような先生の祈りと思いを共有された同労者たちの

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「それでおしまいではない」

日本基督教団高石教会

牧師 一木千鶴子



コリントの信徒への手紙二
4章7〜11節

皆さんは、小さい頃どんな子どもでしたか。人生にはいくつか節目があつて、それまでとまるで違う人になるといふか、以前とは違う面が出てくる、そんなときがあるように思います。私にとって一つの節目となったのは小学校4年生のときでし

存在も、決して忘れてはならないと思います。私たちもまた、この澤山先生や彼の協力者たちに倣つて、創設者たちが築いてくださった建学の精神を、今ある形で継承しようとしているのです。感謝しつつ、与えられた使命を忠実に、的確に、そして誠実に果たしていきたいものであります。

た。私は小さい頃は内弁慶で、家は結構おしゃべりでしたが、外に出ると学校でもほとんどのを言わず、にこにこしながら黙つてすわっているような子どもでした。体育は苦手で、活発に動くこともありませんでした。三年生の担任の先生から「まるでこけしみたい」と言われたことを覚えています。ところが、今でも理由はよく分からないのですが、小学校4年生のおわりくらいから、だんだん自己主張が強くなってきて、自己流の正義感が心にわいてきて、弱い者いじめをしている人や、掃除をおとなしい子に押し付けてさぼっている人、えこひいきをする先生などが許せなくなつて、けんかを売つて歩くようになりました。

小学校6年生のときの担任の先生は、私を「こけしみたい」と言ったのと同じ先生でしたが、卒業するときの通知表には「あなたはけんかの女王様です」と書いてありました。そんな私を心配して、その頃我が家でたった一人クリスチャンだった母が、私が中学入学すると同時に赤い表紙の聖書を私に渡して、教会に行くようにと言いました。私は学校のように行きました。聖書にはいいこと、正しいことがたくさん書いてあるように思いました。教会で教へてもらった聖書の言葉をいろいろな人にあてはめて、私はますます自信をもってけんかをするようになりました。けんかをした日、私は自分が正しいと思つていたので、いつも家に帰つてから母にその日のけんかの報告をしました。「よくやった」とほめてもらいたかつたんです。でも、母はいつもいいました。「相手を赦そうとしない、あんたが悪い」と。中学2年生のある日、私はいつものように母にその日のけんかの報告をして、「あんたが悪い」と言われ、ふてくされて自分の部屋に入り、目に入つたごみをとろうとしていました。その頃私は愛媛県の新居浜というところに住んでいたのですが、新居浜は工業都市で、24時間たくさん高い煙突からもくもくと黒煙が立ち上っていました。その煙は煤煙と

言つて、小さな小さな鉱物を含んだ煙でした。その小さな鉱物が時々目に入るととても痛いのです。今でこそそんな煙を出すことは許されていませんが、私が中学の頃はやつと公害が問題になり始めた頃でした。その日も目に煤煙が入つたので、自分で鏡を見ながら一生懸命それをとろうとしていたのです。その時です。私の心に教会で教へていただいた聖書の言葉が響いてきました。「人を裁くな」というマタイによる福音書の山上の説教で語られたイエスさまの言葉です。私はびっくりして、初めて家で聖書を開きました。そこにはこのように書いてありました。「人を裁くな。あなたがたもさばかれないようにするためである。あなたは兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか」。私は、聖書は他の誰でもない、私に語られている神の言葉なのだということを初めて知りました。その日から、聖書の言葉が私の生活の中に食い込んでくるようになりました。これが私の二つめの節目となった出来事です。イエスさまの言葉は、その頃からいつも「それでよいのか」と私に問いかける言葉として響いてくるようになりました。洗礼を受けてクリスチャンになったのは19歳のときでしたが、私はすでにあの時からイエスさまと一緒に歩ませていただいたのだと思

ます。

そして今に至るまで、私は聖書の言葉、神さまからの語りかけを聞きながら生かされてきたように思います。それは慰めの言葉だったり、励ましの言葉だったり、戒めの言葉だったり、問いかけであったり、促しの言葉だったりするわけですが、いつも他の誰でもない、この私に語りかけてくる言葉でした。聖書はそれのように、一人ひとりに語りかけてくる神の言葉なんです。他のだれでもないあなたに、あなたを愛しておられる神が、その時その時必要な言葉をもって語りかけてくださるのです。

パウロもそのように神に語りかけられ、神に導かれ、神と共に歩んだ人でした。パウロの人生で何と言っても大きな節目は、復活されたイエスさまに出会ったことでした。あのときから、パウロの人生は180度変えられてしまったのです。それまでのパウロは熱心なユダヤ教徒で、エリート中のエリートでした。教会のクリスチャンを迫害するほどに真面目でまっすぐな人でした。自信に満ち溢れた人だったのでしよう。ところがイエスさまに出会って、彼は今まで大事だと思っていたものがすべて塵あくたのように思えた、そして自分が罪人の頭かしらのような罪深い者だということに気づかされたのです。そして、それまではより豊かに、

より賢く、より強くなろうとしていたけれど、イエスさまに出会ってからは、弱いことを受け入れ、認めることができるようになった、そこにごそ注がれるイエスさまの恵みに気づけるようになったのです。彼はイエスさまを信じ、イエスさまを伝える人になりました。

そう言えば、今年もコロナ禍ではありましたが、たくさんの人たちが初詣に行っておられるのをニュースで見ました。家内安全、商売繁盛、誰しもが願うことですね。そうであってほしいと私も思います。でも、聖書は不思議なことに、家内安全、商売繁盛などを約束してくれていないのです。今日のパウロの手紙にも、イエスさまを信じていても、苦しみにあうよと書いてあります。8節からのところ、「四方から苦しまれられても行き詰らず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打倒されても滅ぼされな

た。そこでパウロは、たくさん困難にぶつかり、たくさん苦しみました。自分が苦しんだからこそ、パウロは知っていたのです。苦しいこと、つらいこと、悲しいこと、しんどいこと、これからあなたたちはたくさん経験することになるだろう、でもパウロはそれだけを書いていないのでありません。彼は、それではないよと思ってしまうことを一番伝えたいと思います。確かに四方から苦しめられることもある、途方に苦しまうこともある、しいたげられ、いじめられることもある、打倒されてしまうこともあるだろう。でも、それでおしまいではない、なぜなら、私たちには宝であるイエス・キリストが共にいてくださるのだから。イエスさまは私たちと同じ人間として、苦しみを抜いて、十字架の上で死に、そして復活された方です。私たちのどんな苦しみも悲しみも、一番よく正確に理解し、今私たちが何を求め、何が必要なのか、すべてご存知です。このイエスさまと共にいてくださる、今苦しんでいる人、悲しんでいる人、誰からも理解されない人、大丈夫、あなたは決して一人ではない、イエスさまが共におられる、だから、それでおしまいでないよ、パウロは自らの経験からそのことを私たちに伝えようとしているのです。私は、イエス・キリストの

復活のメッセージは、「それではないか」と信じています。どのように復活するのかとか、復活なんて本当にあるのかとか、そんな議論に私は興味はありません。私にとってイエス・キリストの復活は、死んでおしまいでなかったということです。死んでおしまいでない命があるということです。今、絶望している人、今、苦しんでいる人、今、悲しんでいる人、今、希望を見出せない人に伝えたい、それでおしまいでないよ、それがイエス・キリストの復活のメッセージだと私は信じているのです。今も復活されたイエス・キリストは、私たちにその時その時に必要な言葉で語りかけてくださいます。励め、励まし、共に泣き、共に喜び、そして私たちを立ち上がらせてくださる、イエスさまの言葉にはそんな力があるのです。パウロはそのことを経験して、何としても私たちにそのことを伝えようとしているのです。

年末、夜中にやっていたドイツの前首相メルケルさんを取り上げたドキュメンタリー番組をみました。一人の同じ女性として以前から彼女のこともっと知りたいと思ってきましたが、今回その番組をみて、彼女がその時その時を聖書の言葉によって支えられ、導かれて、生きてこられたことを知り、うれしくなりました。彼女は牧師の娘として生まれ

育ったんですね。私とその番組で感動したいくつかのエピソードを紹介したいと思います。

彼女が議員になった頃、彼女が女性だということで、男性議員からいろいろと執拗に悪口のようなこと言われました。けれども、彼女はそうした事に、いっさい感情的に反応しなかったそうです。その頃彼女を支えていた聖書の言葉は旧約聖書のイザヤ書30章の言葉「お前たちは、立ち帰って、静かに信頼しているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」でした。いづどんなときも慌てふためくことなく、真心がこもった言葉で人々を説得したメルケルさんを支えていた言葉です。また、多くの国が難民の受け入れを躊躇したとき、メルケルさんが特に2015年内戦の続くシリアやリビアから多くの難民を受け入れたときは、その決断が世界を驚かせ、ドイツ国内でも激しい批判が出ました。そのとき彼女は「もし、私が隣人に優しいことをしたからと言って非難されるのなら、もうこの国は私の国ではない」と言って、一歩も引き下がらなかつたそうです。こうしてメルケルさんは16年という長い間首相として働き、昨年9月に任期を終えました。まだやる気があれば再選された可能性は十分あつたそうなのですが、彼女は、やはり「何事にも時がある」という聖書の言葉をあげ、

引退の意思を曲げなかつたそうです。皆さんも、これから長い人生、いろいろなことがあると思います。いい時だけではなく、つらい時、悲しい時、苦しい時、絶望する時もあるかもしれません。でも、そんな時、それでおしまいではないという聖書のメッセージを思い出していただきたいと思います。そして、その時その時、私たち一人ひとりに語りかけられる聖書の言葉によって、イエス・キリストと共に歩む人生があるということをお願いしていただければ、とてもうれしいです。

(祈り)

私たちを愛してくださいと主なる神さま、今日は、梅花女子大学の方々と共に礼拝に招いてくださいましたことを心から感謝いたします。あなたはここにいらっしゃる私たち一人ひとりを愛して、いつも名を呼び、語りかけてくださいます。どうか、聖書の言葉を私に語りかけている言葉として、聞くことができますように。梅花女子大学に連なるお一人おひとりの上に神さまの祝福を心から祈ります。主の御名によって、アーメン。



〈チャペル・アワーの奨励より〉

「良き言葉こそが

良き世界を生み出す」

本学日本文化学科長、教授 田中裕之



ヨハネによる福音書1章1〜4節

おられる山崎佳代子さんという方の言葉です。

こんにちは。日本文化学科ならびに日本文化創造学科の田中といいます。今日、こうして、このチャペルで話をする機会を与えられたわけですが、私は信仰を持つ者ではありません。ですから、ここで話をするというのは場違いな気もするのですが、何を喋ってもいいということでしたので、今日は、これまで卒業式の日、自分の学科の卒業生によく話してきたようなことをロングバージョンでお話ししてみようと思います。タイトルを「良き言葉こそが良き世界を生み出す」としました。この言葉は、東ヨーロッパにあるセルビアという国の首都ベオグラード在住の詩人で、翻訳家で、文筆家で、ベオグラード大学で日本文学を教えるも

セルビアという国のことはみなさんあまりよく知らないだろうと思います。テニスが好きなのはジョコビッチの母国として、サッカーが好きな人は日本でもプレーしたストイコビッチの母国として、あるいは最近まで浅野拓磨がプレーしていた国として、知っている人がいるかもしれません。でも、まあ少数でしょう。このセルビアという国は、かつてはユーゴスラビアという連邦国家の中にありました。ユーゴスラビアは、六つの共和国からなる連邦国家で、五つの民族が住み、四つの言語と三つの宗教、二つの文字がありました。これぞ多民族国家といった感じですね。ところが、国をまとめたチトーという指導者が1980年に亡くなってから、様々な問題が噴出し、1991年には悲惨な内戦が始まります。そして、今では六つの共和国はそれぞれ独立して(セルビア、クロアチア、スロベニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア(北マケドニア)、モンテネグロ)、ユーゴスラビアは完全に解体してい

ます。

山崎佳代子さんという方は、学生時代にそのユーゴスラビアに留学され、そのままユーゴで結婚し家庭を持ち、悲惨な内戦の最中も現地に居続けた方です。難民支援のボランティア活動などにも参加され、そこで様々な人々に会い、話を聞きます。その時にはつきりするのは、メディアが伝えている状況は、決して現実をそのまま反映しているものではないということ。欧米のメディアは、昨日まで同じ国民だったセルビア人とクロアチア人やモスレム人（ボスニア・ヘルツェゴビナの人口の四割を占めるイスラム教徒）が対立し殺し合うという状況を連日伝え、それがさらにお互いの憎しみを煽ることになりました。しかし、実際には、もちろん殺し合っているセルビア人とクロアチア人、モスレム人もいるのですが、一方でお互いに支え合い、助け合っている人たちもいるわけです。そもそもこれまでユーゴスラビアという多民族国家だったのですから、別々の民族の間で結婚というのも続いてきたわけで、何人だとはつきり言うことのできない人だつて多いのです。ですが、異なる民族間の助け合いといったことがメディアで伝えられることはなく、メディアが伝えるのは、もっぱら民族間の激しい対立ばかりで、ついには悪役ということにされたセルビアの首都ベオグラードは、N A T

O軍によって空爆されるにいたります。

この内戦の最中、メディアはもっぱらユーゴスラビア内部の分断を加速させる言葉を用いました。人々の中にも相手を敵として憎悪し罵る言葉を用いる人々がいました。けれどもその一方で、同じ空の下には、助け合い支え合う言葉を用いる人たちもいたのです。山崎さんは、このメディアが伝えなかつた方の言葉を記録（聞き書き）した書物も出版しております。

言葉というものは、本来、何かと何かを切り分けるものです。私たちはこれをマイクと名づけ、これを机と名づけて、この二つを別々のものとして捉えます。言葉とはそのようなものです。ですが、言葉は、常に世界を切り分けていくわけではありませぬ。言葉は、ある民族と他の民族を、ある国民と他の国民とを区別し切り分けることもできれば、互いを友好的に結びつけることもできます。同じ国の国民を分断させることもできれば、融和させることもできます。

話がユーゴスラビアから始まったので、何だか大きな話になっていいますが、もつとずっと身近なことでも同じです。言葉は人を仲違いさせることもできれば、仲直りさせることもできます。人を傷つけることもできれば、人を癒し、救うこともできます。後者こそが良い言葉だとい

う。ことに異を唱える人はいないでしょう。

どうせ言葉を使うなら、皆さんには良い言葉の使い手に、人を傷つける言葉の使い手ではなく、人の為になる言葉の使い手になってほしいと思うのです。もちろんこれは、自分に向けての願いでもあって、そうありたいものだと思います。ついついよろしくない言葉を発して、反省することはしばしばあります。

話をもう少し進めたいと思います。「良き言葉こそが良き世界を生み出す」、この「良き言葉」というのは、良き思考、良き思想、つまりは良き考え方として捉えることもできます。私たちは言葉で考えます。言葉のない思考はありません。新しい知識を得るといふのは、新しい言葉を覚えるということですし、民主主義とか共産主義とかいうようなものも、結局は言葉の体系です。

「良き言葉こそが良き世界を生み出す」を、「良き考え方こそが良き世界を生み出す」と言い換えてしまえば、実に当然のことを言っているようなのですが、では、何が良き考え方で、何が悪い考え方なのか、という点、これは人それぞれ異なります。先程、人を傷つける言葉ではなく、人を癒し救う言葉こそが良い言葉だと当たり前のように言ったわけですが、物の考え方の良し悪しとなると、そう簡単には言えなくなり

ます。それは結局一人一人の主観であり、一人一人が決めることになり

ます。先程話題にしたユーゴスラビアの内戦でも、戦争に積極的に加担した人たちは、戦争を良しとする言葉、敵をやつつける、追い出すという考え方を、良いもの正しいものとして選び取つたわけです。子どもの頃から、おそらくは自分をユーゴスラビア人として捉え、多民族国家ユーゴを良しとしていたはずの人たちが、民族主義を煽る新たな言葉、新たな考え方こそを良いものとしてしまつたわけです。

今年、アメリカでは大統領が変わりました。政権与党も変わりました。どちらが良い大統領で良い政党なのか、支持者は真つ二つに分かれています。トランプ支持者は、トランプの考え方、トランプの言葉こそが良き世界を生み出すと信じていますし、バイデン支持者は、バイデンの考え方、バイデンの言葉こそが良き世界を生み出すと信じているわけです。イスラム原理主義の過激派がテロを行うのも、彼らは彼らの言葉こそが良きものだと思っているから

です。イスラエルとパレスチナは何度も戦闘を繰り返してきました。昨日、一応停戦ということになったようですが、またいつ戦闘が再開されるかわかりません。ロシアとウクライナも緊張状態が続いています。アフリ

カには紛争、内戦が続いているところが多くあります。アジアでもインドと中国、ミャンマー、それから香港、台湾、ウイグルの問題と、政治的な大問題は数々あります。どうすればより良き世界が生み出せるのか、私たちはどのような考え方をよしとするのが問われます。

ここで、そんな遠い場所のことは私たちに関係ないとか、どうせ私たちには何もできないのだから、とは思わないで欲しいのです。確かに特別な何かができるわけではない。それでも、関心を向ける、そこにいる人々に共感するというのは大事です、そうしなければ、どんな世界を望むのかという思考自体が始まらないですよ。まずはそこからだと思います。

梅花のスクール・モットーは「人にしてもらいたいことは何でも、あなた方も人にしなさい」です。これ、難しいですよ。だいたい日本では、「人に迷惑をかけるな」とか「人の嫌がることをするな」と言われます。私は、「人に迷惑をかけないなら、何をやってもいい」と言われて育ちました。「何をやってもいい」の前に、「人に迷惑をかけるな」があるのです。この「人に迷惑をかけるな」とか「人の嫌がることをするな」という教えが、外国人労働者などかたしばしば、日本人は冷たいと言われる原因なのだろうと思います。この教えそのものが間違っているとは思

いません。ただ、「迷惑をかけるな」「嫌がることをするな」というのは行動の抑制ですから、どうしても他人と距離をとることになります。スクール・モットーの言葉は、そういった、他人への無関心に繋がってしまう危険性をはらんだ日本人らしさを越えようというものののだろうと私は理解しています。しかし、やはり日本人には難しい。私にも難しい。それでも、行為行動は難しくても、関心を向けること、心を向けること、共感することならできると思っています。まずはそこから、ということ。ぜひとも世界にも目を向けてほしいと思います。

また話が大きくなっていきますが、どのような言葉、どのような考え方をよしとするか、これは国家とか政治とかの大きな問題だけに限らず、もともとと小さな、例えば一つの会社の一つの部署の中とか、サークル活動の中とか、バイト先とか、友人関係の中とか、様々な場面で直面する問題でしょう。

どのような場面でも、判断のために必要となるのが知識です。材料となる知識がないと判断はできません。柔軟な姿勢も必要です。最初から一つの考えに凝り固まって、他を排除するような姿勢では、そもそも新たな知識は得られません。耳は傾けなければなりません。そういった姿勢を身につけるため、判断の材料となる知識を身につけるためにあるのが、

学問です。情報処理の仕方を知り、知識を得、思考の方法を知り、新しい言葉を獲得して、自分自身を少しずつ新しい自分へと更新していく。この点は、赤ちゃんが言葉を習得していく過程と変わりはないと思います。新しい言葉を獲得して、新しい考え方を知る。そして、より良き考え方を見極める。学問とはそういうものだと思います。

大学では様々な学問分野に接することが出来ます。新しい考え方に触れることができます。今この話を聞いている学生の多くはおそらく一年生でしょう。自分の専門分野についてしっかり学ぶとともに、色々なことに興味を持ってほしいと思います。もちろん、これは上級生にも言いたいことですけれど。それから、私は大学で文学という学問分野を担当している教員ですから、立場上というわけでもないですが、文学を強くお勧めしておきます。学問としての文学でなくても、小説を読むということを、新しい言葉、新しい考え方に触れるツールとして、強くお勧めします。

人間を描くのが文学です。映画もドラマももちろんそうで、私は映画もドラマも大好きなのですが、様々な価値観や考え方を持った人々の内面を、小説ほど掘り下げて提供してくれるジャンルはないと思っています。ですから、小説は、そういった様々な人間の考え方、感じ方、価値

観を知るための有効な手段ですし、さらにはその人間が住んでいる社会や世界や時代を知るための有効な手段でもあります。

こういう人間もいるのだ、と知ることには繋がります。また、主人公とともに喜んだり悩んだり苦しんだり考えたりすることは、感情や思考の、つまりは生きていくことのシミュレーションの役割を果たすことでもあります。小説の主人公に寄り添った心の動きや感情の変化の体験が、現実の困難に直面したときに生きることもあります。小説は人間の生きる力を育みます。他者の内面を想像する力と共感する力を養います。そしてこの他者への想像力と共感力は、傷つける言葉よりも、結びつける言葉を生み出すはずだと私は思っています。

山崎佳代子氏のご紹介



クリスマス礼拝講師
詩人・ベオグラード大学文学部教授
山崎佳代子

静岡市出身。翻訳家としてセルビア文学の日本語翻訳に携わるほか、白石かずこ、谷川俊太郎など日本現代詩人の作品を中心にセルビア語に翻訳、紹介につとめておられます。さらに詩人として日本語、またはセルビア語で作品を発表。
ベオグラード大学文学部に日本語・日本文学専攻課程開講以来、日本語教育、日本文学史を担当。また、旧ユーゴスラビア内戦の体験から難民支援グループのメンバーとして活動。

at. チャペル 13:15 - 14:15

2011年クリスマス礼拝の案内より

また、様々な国の様々な時代の小説を読めば、その国のその時代の価値観、考え方を知ることが出来ます。これらの知識は、私たちがより良い言葉、より良い考え方を取り取る上での参考になるものだと思います。

以上、「良き言葉こそが良き世界を生み出す」という山崎佳代子さんの言葉に導かれるようにして、ここまで話をしてきました。私が山崎さんに初めてお会いしたのはこのチャペルでした。どうやら十年前になるようです。梅花のクリスマスス礼拝に、ちょうど帰国しておられた山崎さんが招かれたのです。山崎さんを招いてくれて、あの出会いの時を作ってくれた宗教部の奥西さんにはとても感謝しています。実際にお会いする前の山崎佳代子さんは、私にとっては、大学時代に同じ下宿に住み、仲良くしてもらった先輩のお姉さんでした。その先輩を通して、学生時代から山崎さんという詩人の存在は知っていたのですが、それから二十数年の時を経て、梅花で初めてお会いしたという次第でした。その仲良くしてもらっていた先輩が、もう長いこと難病を患っておられます。全くの私事になりますが、最後に、先輩の回復を願って、これで責務を果たせたのかどうかはわかりませんが、今日の話を終わりとします。



〈チャペル・アワーの奨励より〉

「かんじんなことは、目に見えないんだよ」

本学情報メディア学科 教授 玉置 好徳



コリントの信徒への手紙二 4章18節

本日のチャペル・アワーの配信をご視聴の皆さん、こんにちは。

私は、ただいまご紹介にあずかりました、文化表現学部・情報メディア学科のたまおきよしのりと申します。王様の王に点をつけた玉に、置物の置くくと書いて、タマキではなく、タマオキと読みます。ちゃんとフリガナを振っているにもかかわらず、受付でタマキさんと呼ばれてしまうタマオキです。以後お間違えないよう、どうぞよろしく願います。

このほとんど正しく呼ばれたことのない名前には、たった一つだけいいことがあります。この自己紹介を

すると、ほとんどの人が名前を覚えていくことです。

さて、本日の奨励題には、「かんじんなことは、目に見えないんだよ」という少々長いタイトルを付けました。もちろんこれは、先ほど高田太先生が朗読された、2021年度の梅花学園年間聖句である、

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」(コリントの信徒への手紙二 4章18節)

に触発されたからですが、それとは別に、あの本の一節からではないかと目を付けた方もいらっしゃるのではないかと思います。その通り、これはサン・テグジュペリ作『星の王子さま』から引用した一節です。最近ではさまざまな出版社が新しい翻訳を出版していますが、本日本学の図書館からお借りして参りましたのは、私が子どもの頃に読んだのと同じ、内藤濯(あつら)さんが訳した岩波書店

の1962年初版の本です。僕のようなおじさんには、やっぱりこの年季の入った本の方がしっくりきます。この一節は、それまでにいろいろな経過があって、ようやく王子様と友達になれたキツネが、その別れ際に王子様に向けて送ったひとことです。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは目に見えないんだよ。ちなみに、ここでいう「かんじんなこと」とは、王子様が故郷の星に咲いた一凜のバラの花にいだいた愛情のことです。ちよつとキザでロマンティックなセリフですね。



では、そろそろ話の本筋に入りたいと思いますが、私にとつての「目に見えないかんじんなこと」とは何かという、残念ながらそのようなロマンチックなものではありません。それは私の「命」にかかわること、もっと具体的にいえば、この胸の奥で今も脈打ってくれている「心臓」

にかかわることです。

今からもう数年前のことになりましたが、子どもと一緒に自転車ですもの坂道を上っている途中のことでした。突如ひどいめまいがして、目の前が真っ暗になりました。そのときは幸いすぐにおさまったので、道路上で自転車ごと転倒することもなく、何とか事なきを得ました。

けれども、やっぱり気になったので、後日近所のかかりつけ医に診てもらおうと、一度国立循環器病研究センターで診てもらった方がいいと紹介状を渡されました。それで国循の外來で診察を受けたところ、なんと、即入院してくださいといわれてしまったのです。そのときは、別の意味で目の前が真っ暗になりました。本音を言えば入院などしたくありませんでしたが、お医者さんにそう言われたら逆らえないので、入院して精密検査を受けたところ、心臓の働きが悪くなっている、脈拍が遅くなっていることがわかりました。それで心臓にペースメーカーという機械を埋め込む手術を受けることになりました。ペースメーカーというのは、心臓がちゃんと働くように電気刺激を与える機械のことです。例えば、胸の中に嫁さんがいて、四六時中叱咤激励されてるみたいなものですね。いつもありがとう。お手柔らかにお願いします(笑)。大き

さは直径が五百円硬貨ぐらいのもので、左の肩甲骨の下から血管を通じて心臓まで細い電線を通すのです。それは私が生まれて初めて受けた大きな手術でした。その手術を待つ数日間、暇を持って余して病院の中をうろろると徘徊していると、私が入院している病棟の隣に心臓移植のための病棟がありました。そこには、うちの子どもと同じぐらいの年恰好の子どもたちが大勢入院していました。その子たちは、移植する心臓を提供してくれるドナーが現れるのを待っているのです。けれども、みんながみんなにドナーが見つかるわけではありません。見つからなければ、果たしてどうなるのか。私は幸運にもペースメーカーを埋め込むことで命拾いました。そのときに人間の運命というものを感じて心が痛みました。

では、心臓にペースメーカーを埋め込むとその後どうなるかです。まず市役所で申し込むと、身体障害者手帳というものがもらえます。これがそうです。私の場合には、「心臓機能障害(ペースメーカー)一級」と書かれています。ちなみに、身体障害一級がどの程度のものかというところ、もっとも重度の身体障がいのこととを指します。

ですが、私のことをバツと見て、そんなに重い障がいがあると気づく

人が、果たして何人いるでしょうか。おそらく一人もいないのではないかと思います。

では、重度の身体障がい者となつて何か困ることがあるかというところ、実は今のところあまりありません。私の場合には、自分の足で歩くこともできませんし、目や耳も不自由ではないからです。ご期待に沿えず申し訳ございません。ただし、場所が場所だけに、この先また心臓の働きが弱ってきたらどうなるか、という不安は常に抱えています。

また、これはむしろ歳のせいなのかもしれませんが、手術前よりも体が疲れやすくなったような気がします。そのために、体がしんどいときなどは、建物の入り口近くにある障がい者用駐車スペースを使わせていただいています。ですが、見た目ではわからない障がいなので、ときには奇異な目で見られるときがあります。また、電車に乗ったときに優先席に座るときも、時折周囲からの視線が気になるときがあります。

車いすを利用して移動したり、白杖を突いて先を確かめながら歩いたり、といった一目でわかる障がい種別の方たちとは、また違った苦労があるように思います。それは、見た目からは周囲の理解を得にくかったり、必要なときに手助けをしてもらえなかったりすることがあ

るからです。

実は、世の中には、内蔵などに障がいがある「内部障がい」、人との関わりや社会適応などに困難がある「発達障がい」や「精神障がい」など、見た目ではわからない障がいがある人が大勢います。それらを総称して「見えない障がい」と呼びます。

私のような見えない障がい者が、周りにその存在を示すための「ヘルプマーク」というものがあります。大阪府のホームページでは「ヘルプマークとは、外見からはわからない援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成されたマークです。このマークを見かけたら、電車内で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をお願いします」と紹介しています。「義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としている方」を対象としています。ヘルプマークを身につけた方を見かけたら、「○電車・バスの中で席をお譲りください。○駅や商業施設等で、困っているようであれば声をかけるなどの配慮をお願いします。○災害時は、安全に避難するための支援をお願いします」といったことが要請されています。もし興

味があれば一度ホームページをご覧になってみてください。

また、わが国には「障害者差別解消法」という法律があります。これは、障がい者の社会参加を阻むのは、障がい者の側ではなく、それを取り巻く社会の側に問題があるという前提に立って、個々の障がい者に応じた「合理的配慮」をすることが、本学を含めた学校や会社などに義務付けられています。それは、段差の解消などの物的環境の改善はむしろ人のこと、障がい者に対する差別や偏見の払拭といった「心のバリアフリー」も対象に含まれています。

最近、社会福祉の業界では、「地域共生社会」の構築が、トレンドと なっています。これは、障がいがある人もない人も、ともに地域でささえあって生きていこうという考え方です。今後はそのような社会をつくっていくかねばなりません。と、ここまで私自身の体験も交えて、見えない障がいをめぐる問題について話してまいりましたが、これだけだと、まるで障害者福祉論の講義みたいになってしまいます。なので、も

う一つ、これとは別の目に見えないけれどもかんじんなことを話したいと思います。

皆さんは、神様は本当にいると思いますか。ちなみに、私は、まだ本物の神様を見たことがありません。もしかしら、信仰厚い高田先生のところには、時折神様がお姿を見せてくださるのかもしれませんが、私のような不信心な者のところには一向にやってくるはくれません。だから、私は神様が実在するという確証を持たずに、これまで生きてきました。それどころか、先ほどお話ししたように、病気になるって明日の命が保障されないという状況になったときに、罰当たりにも、何で俺がこんな目に遭わなあかんねん！ 神も仏もあるものか！ と捨て鉢な思いになったこともあります。神様、もし聞かせてたらごめんさい。

ただし、神様の存在に確証が持てなかつたのは、どうやら私だけではないようです。たとえば、「人間は考える葦である」との名言を残したフランスの哲学者パスカルもそうです。その証拠に、かれは、その主著である『パンセ』という本のなかで、「パスカルの賭け」という話をしていいます。それはどんな話かといえれば、神様がいる方に賭けるか、いない方に賭けるか、というギャンブルについての話です。実に不謹慎極ま

りのない話なのですが、ここで賭けるのは、「カイジ」や「賭ケグルイ」みたいなお金ではありません。ここで賭けるものは、その人がもつた一つの命とかけがえのない幸福です。そして、パスカルはこう言いま

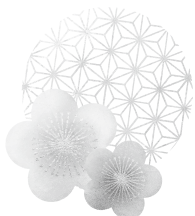
す。「もし神様がいる方に自分の人生を賭けたとしたら、もし賭けに負けたとしても失うものは何もないけど、もし賭けに勝ったとしたら無限の幸せと永遠の命を手にすることができる」。皆さん、パスカルの言っている意味がわかりますか。神様がいてる方に賭けたら、本当は神様がいてなくて賭けに負けたとしても絶対に損しないどころか、もしいたら永遠の命と無限の幸福がおまけに付いた天国行きのプラチナチケットがもらえるから絶対にお得やで！ と言ってるんですよ。そんなもん、はなっからイカサマで賭けにもならんやん！ でも、それで本当に幸せになれるのなら、僕は神様がいる方にスパー（笑）としくん人形を賭けましよう！（笑）その方がこれからの人生よりハッピーに生きていけそうですから。

皆さんなら、どちらに賭けますか。神聖なチャペル・アワーの時間に、こんな話ばかりしていると、あとで高田先生に叱られそうなので、このぐらいにしておきます。さて、本日は、『星の王子さま』

より「かんじんなことは、目に見えないんだよ」と題しまして、まず一つめに、私自身の体験を交えて「見えない障がい」についての話をしました。そして二つめに「パスカルの賭け」の例え話から、目に見えない神様は本当にいるのか。いないのか。ということについて、皆さんと一緒に考えました。どちらも、たしかに目には見えないけれども、とてもたいせつなものですよね。そして、最後にもう一度、星の王子様のあのセリフを思い出してみましょう。

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは目に見えないんだよ」。それでは、あなたにとって、目に見えないけどかんじんなこと、とは何でしょうか。この機会にぜひ考えてみてください。

以上をもちまして、本日の奨励を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。皆さまのご感想をお待ちしております。



へクリスマス礼拝の奨励より

「ほほえみ交わすクリスマス」

日本基督教団近江金田教会 牧師 横田 明典



イザヤ書60章1〜2節
ルカによる福音書2章8〜14節

昨日の日曜日、私の教会でもクリスマスは12月25日ということになっていますが、それが平日だとなかなか人が集まらないので、クリスマス直前の日曜日に、教会ではクリスマス礼拝とお祝いをします。

昨日の私の教会、近江金田教会の一日を紹介すると、朝の礼拝があり、お昼はお弁当を食べて、ちょっとしたお祝いの会をしました。コロナ禍ということもあるので、食事は黙食ですし、それ以外はずっとマスクをしながら、アルコール消毒や換気を取りながら、そんな感じでした。

午後2時からは、今度は子どもたち

のクリスマス会をしました。最近、私の教会には不思議と子どもたちが集まって来ています。といっても十人くらいではあるのですが、主に小学校低学年以下の子どもたちと礼拝をして、その後はゲームをしたり、サンタさんがきてプレゼントをもらったり、ビンゴゲームをしたりと楽しいクリスマス会でした。

さらにそれが終わると夕方からは青年たちのクリスマス会でした。これもまた食事をして、ちょっとしたゲームをして、プレゼント交換をしました。

そして夜は夕拝といって、お昼に仕事や事情で来れなかった人のための礼拝をしました。

昨年、今年と、新型コロナウイルスの影響で、クリスマスは礼拝だけをして、午後からのプログラムをまったくしない教会も多くなっていますが、近江金田教会では「必要な感染対策をしながらであれば大丈夫」と判断をして、一日、クリスマスを楽しんだのです。コロナになる前は、おそらくほとんどの教会が、クリスマスの日曜日には、そうやってクリスマスのお祝いをしてい

ました。

皆さんはどうでしょう？

繰り返しますが、昨年、今年とコロナの影響でなかなか人と会うことが難しくなっています。クリスマスはどうやって過ごしていたでしょうか。

彼氏や彼女がいる人にとってはクリスマスは、大きなイベントの一つだったでしょうし、部活動や家族でも、クリスマスを一つのイベントとして、ケーキを食べたり、プレゼントを送ったりしていたと思います。この国では、いや世界中で、クリスマスはそんな「楽しいイベント」として、お祝いをしています。クリスマスはそんな「楽しいイベント」

「I wish you a merry Christmas」という英語が省略されたもので、相手に対して「陽気なクリスマスを」という挨拶です。ですから、陽気です。楽しいクリスマスをすること、は、多くの国で行われていること、ということになります。

ただ、クリスマスは、本来はキリスト教の宗教行事であり、イエスキリストが生まれたことを喜び祝う日です。ね。梅花で学ぶ皆さん、そのことは十分承知かと思えます。そのクリスマスが、今では商業的な宣伝にも乗せられて、キリスト教とは関係ない人でもクリスマスのイベ

ントをしたりします。その中には、クリスマスがイエス・キリストが生まれたことを祝う日であることを知らない人もいろいろいます。そのことに関して、私はまったく問題ないと思っています。コロナ禍なので言いくいとところではあります。でも、どんなクリスマスもプレゼントをもらったなら良い、くらいに思っています。

ただ、せっかくなので、「本来、なぜクリスマスをするのか」ということにも触れておきたいと思っています。

これは、2000年前の最初のクリスマスよりも、さらにもっと昔に遡ります。

この世界のすべてを造られた神様は、その世界のお世話をするために、人間にそのお世話係としての役割を与えました。その頃は、神様と人間の関係はとても良いものでした。ところが、人間は神様と交わした約束を破ってしまいました。言うなれば神様を裏切った、神様に背を向けた、ということになります。

ただ、神様は人間にとって親同様の存在なので、自分を裏切った人間を赦しました。しかしその後も、人間は度々神様を裏切ります。何度も何度も、人間は神様との約束を破ったり、言われていることを守れない、そんなことを続けます。私には小学校3年生の娘がいるの



クリスマス礼拝

ですが、私の娘も親との約束を破り続けています。Nintendo Switchでゲームをするのは30分まで、と約束をしていても、その約束を破りますし、「明日は学校に行く」と約束しても、朝になって「やっぱり行きたくないから休む」と言って学校を休みます。

ちなみにうちの娘は今、プチ不登校で、週に2、3日しか学校に行きません。学校に行かないことは問題ないし、本人が行きたくないならそれはそれで構わないと思ってるのですが、それでも娘は学校にいかなければならぬとは思っているらしく、頑張って「行く」と宣言して約束をするのですが、やっぱり朝になるとダメなようです。親は、娘が学校に行くと言うものですから、仕事の調整をして、学校に送っていく段

取りをするわけですが、いざふたを開けてみると「やっぱり行きたくない、行かない」と言い出すので、こっちの予定が狂ってしまっって、時々イラッとしてしまいます。

そんな情けない親をやってますが、ところが神様は人間に対して寛容です。

人間は自分の都合の良い時だけ「神様、助けてください」と言うんです。普段、自分の知恵や力を使って乗り越えられる時には「神様なんて必要ない」と思うのですが、これは無理だ、乗り越えられないって時には「神様、神様」って呼んでくるんです。

それが一度や二度のことなら、まだ辛抱できると思うのですが、それが何度も続くのです。親ですら、時々イラッとするのは、人間を造られた神様はそうではない。何度人間が神様との約束を破ろうと、何度人間が神様を裏切ろうと、その度に、赦し、人間を救ってくださいな：そんな神様です。

それはまさに人間のことがいとおしく、愛して下さる神様だから、できることなのだと思います。

実は、旧約聖書には、そんな人間の失敗と、神様の救いということが、長々と書かれています。

きつと神様は、人間が同じ失敗を繰り返すものだから、何か方法を考えたのではないかと思うのです。

そこで、神様の思いを直接人間に伝える方法として、イエス・キリストを世に送ったのだと思います。自分の分身のような存在として、「神様はこう考えているし、神様ならこうする」ということを、イエス・キリストを通して伝えた、示したのが、イエス・キリストだと私は思っています。

つまり、人間は神様のことを裏切り、約束を守れない……そんな弱さや欠けているところが多い人間に対して、神様の愛を直接示すために、イエス・キリストを人間の世界に送った……それがクリスマスという出来事、ということになります。

だから、クリスマスという出来事は、イエス・キリストが生まれたことを喜ぶのと同時に、「神様ありがとう」という出来事でもあるのです。

それで、「クリスマスおめでとう！」ということになります。イエス・キリストが生まれておめでとう！人間が神様に赦されておめでとう！人間が神様に愛されていることがわかっておめでとう！それで、クリスマスをお祝い、ということになります。

そのことがよくわかるのが、クリスマスについて書かれている聖書の物語の中では、「羊飼いたちへの知らせ」の物語です。

当時の羊飼いとというのは、今で言う「ブラック」な仕事でした。相手

は動物ですから、朝から晩までその羊の群れのお世話をしなければなりません。長時間労働ですし、周りには狼や獣などの外敵もいたのです。そこから守らなければなりません。時には命の危険さえある仕事です。その補償もなければ、それだけ賃金が高いというわけでもなく、むしろ貧しい収入しかないのです。そのため羊飼いと職業は、他の人たちが嫌われていたのです。

けれども、今日の箇所にあるように、イエス・キリストが生まれたことを「最初に知らされた」のが羊飼いでした。神様が人間を愛している、赦してくれるそのしるしとしてイエス・キリストが生まれたことを、最初に知らされるべき人だったということなのです。

この後、羊飼いたちは出かけていって、生まれたばかりのイエス・キリストのもとへと向かい、赤ちゃんイエスと出会って、その喜びを分かち合いました。

つまり神様は、人間を愛し、赦して下さるしるしとしてのイエス・キリストの誕生を、当時の偉い人やお金持ちに知らせたのではなく、むしろ底辺で働く人たちにまず知らせた、ということが、ここに書かれています。

クリスマスをお祝いするのは、イエス・キリストが生まれたというこ

との裏側に、「それだけ人間を愛して下さっていること」、そして「今辛い思いをしている人にその知らせが伝えられた」ということがあるのです。だからこそ、クリスマスはみんなが祝う、みんなが笑顔で過ごすのがクリスマス、ということになるわけです。

そういえば、昨日は、教会に生まれて2ヶ月の赤ちゃんも来てくれました。

赤ちゃんは、人を笑わそうとしてくれるわけではないのに、その赤ちゃんを見る人の顔って、不思議に笑顔になります。そういった周りの人の笑顔を見ると、きつと赤ちゃんも安心するのだと思います。

みんなで祝うクリスマスに来てくれて本当に良かった、と思っていました。

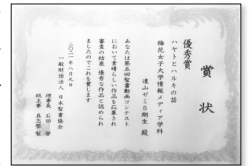
クリスマスを祝う意味を知るということは、きつと自分自身も愛されて、赦されていることを知るということにつながるのです、自分自身が笑顔になると思います。そのそしてその笑顔を見る人も、その笑顔につられて笑顔になるかもしれません。

いろいろな難しい時代ではありませんが、そのような笑顔が広がるクリスマス、ほほえみ交わすクリスマスを、共に喜び、祝いたいと思います。



第5回聖書動画コンテスト・アワード2020

優秀賞受賞



2021年8月9日にオンラインでのライブ開催された「第5回聖書動画コンテスト・アワード2020」で

情報メディアア学科遠山ゼミ5期生が、応募51作品の中から優秀賞に選ばれました。

作品名は、ハヤトとハルキの話。双子の兄弟の成長が姉の視点をとおして描かれています。

コロナ禍の影響で、応募締め切りや審査がほぼ一年遅れ、学生たちが卒業してからの受賞となりました。

遠山ゼミ5期生のみなさん、遠山先生、おめでとうございませう！

(本学情報メディア学科HPより)

2021年度 献金のご報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きましてありがとうございます。今年には下記の新型コロナウイルス緊急支援募金・施設・団体等に、集めた献金を送付いたしました。ご協力いただきました皆様へ心より感謝し、ご報告申し上げます。

《 献金送付先 》

前期献金

- ・ユニセフ「新型コロナウイルス感染症緊急募金」 20,000円
- ・国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン「新型コロナウイルス緊急支援募金」 20,000円
- ・大阪府「新型コロナウイルス助け合い募金」 20,000円
- ・パンダ園 15,000円
- ・止揚学園 15,000円
- ・救世軍希望館 15,000円
- ・大阪水上隣保館 15,000円
- ・レバノンホーム 15,000円
- ・振込手数料(郵便局) 608円

合計 135,608円

後期 クリスマス献金

- ・大阪府「新型コロナウイルス助け合い募金」 17,000円
- ・パンダ園 14,000円
- ・止揚学園 14,000円
- ・救世軍希望館 14,000円
- ・釜ヶ崎医療連絡者会議(路上生活者支援団体) 14,000円
- ・レバノンホーム 14,000円
- ・振込手数料(郵便局) 345円

合計 87,345円
総合計 222,953円

※クリスマス献金の残金343円は、2022年度の前期献金に繰り入れさせていただきます。



賞状

2021年8月9日にオンラインでのライブ開催された「第5回聖書動画コンテスト・アワード2020」で

*** 郡山敬愛幼稚園の皆さんが来校されました ***
宗教部

11月16日(火)に茨木市新郡山にあります郡山敬愛幼稚園はと組の園児の皆さんと引率の先生35名が、本学の礼拝堂を見学に来られました。宗教主事の高田太先生が「今日は何をしに来ましたか」と質問すると、はと組の園児たちが声を合わせて「サウンドオブミュージックの舞台を見学に来ました」と元気よく答え、礼拝堂やオルガン、ステンドグラスの説明を聞いた後、一緒に礼拝堂のクリスマスツリーに飾り付けをしました。後日、郡山敬愛幼稚園はと組の皆さんからメッセージ入りのお写真が届きました。郡山敬愛幼稚園の皆さんまた梅花女子大学にお越し下さい。お待ちしております。



幼稚園からのメッセージカード



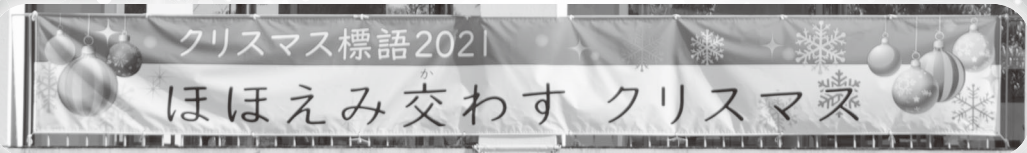
礼拝堂の園児の皆さん

2021 年度アドベント点灯式の動画を配信しています

昨年11月22日(月)に澤山記念館礼拝堂で開催いたしました2021年度アドベント点灯式の動画は次のQRコードからご覧になれます。



※2022年10月末までアップしています。



学園クリスマス標語
—2021年度クリスマス標語—
「ほほえみ交わすクリスマス」学生会館前

アドベント点灯式
2021年11月22日(月) 澤山記念館礼拝堂



クリスマス礼拝
2021年12月20日(月) 澤山記念館礼拝堂



「私にとつてのチャペル・アワー」

看護学科一年生 川原田 彩音



大学生になりコロナ禍ということもあり実際にチャペル・アワーに足を運び聞くことは出来ませんでした。ですがスマートフォン越しに聞くオルガンの音や、毎回お越しいただく先生方の話は心打たれることばかりでした。チャペル・アワーを受け始め早一年が経とうとしている今では、私にとつて制限された生活を過ごす中で心を癒す時間となり貴重な時間となりました。そしてチャペル・アワーを通して、私自身今まで誰かの役に立とうとして頑張ることで空回りしていましたが、人それぞれ役割があり価値のない人などいないのだと自信を持てるようになりました。

「チャペル・アワーから日常を見つめて」

心理学科一年生 前田 莉乃子



チャペル・アワーの中で、神と聖書について、様々な方の体験談や現代の問題などの日常と照らし合わせることで、与えられていることの自覚や、隣人愛による他者理解など、生きていくために何が必要かを考える機会を頂くことができました。今日、情報社会となり、知識を蓄えることが容易となった時代であります。理解し得ないものの合理性を尊重すること、神から与えられた世界を受け入れ見つめるキリスト教の精神はとてども為になると感じています。

追悼

カウンセラーとしての山本文雄先生

梅花学園資料室 安田 行秀



元学園長・学生相談室長
山本文雄先生

1921年にお生まれになった山本文雄先生は2021年6月に百歳の天寿を全うされました。梅花学園では学生部学生相談室の初代室長として山本先生をお迎えいたしました。1940年に同志社大学神学部予科に入学され、1946年に卒業しておられます。卒業後は神学研究室に残られるのですが、2年後に同志社大学学生部で学生主事として仕事をされることになりました。1952年にシカゴ神学校に一年間留学されます。そこで新進気鋭の臨床心理学者カール・ロジャースに出会い、最新の心理療法を習得され、カウンセラーとしての山本先生の誕生となります。帰国後は学生部に戻られカウンセラーとして仕事を始められます。同志社女子大学で総務部長として勤められた後、1986年に梅花学園で学生部学生相談室の初代室長に就任されます。学生相談室は学生サービス向上の一環として新設された機関で、翌年に梅花学園の学園長に選ばれた後も学生相談室長は兼務されておられます。当時の梅花女子大学の学生のタイプは同志社とはかなり違いがあり、山本先生の考えておられる学生相談の在り方とは異なった形になり、少し戸惑われたのではないのでしょうか。しかしすぐに慣れられて、先生の優しい目線で学生に接していただきました。梅花学園の教育について礼拝でお話しておられます。教育とは学生の「自ら学ぼう」というプロセスに重点を置いて、学生の主体性、自律性、自発性を養って「人間の解放」に繋がるものでなければならぬ、と述べておられます。1993年に任期満了で学園長と学生相談室長を退職されました。9人兄弟の末っ子という周りから可愛がられてお育ちになった環境のせいとかどこか愛嬌があり、梅花ではいつもここにこしておられたお姿を思い起こします。幸運にも恵まれた豊かな人生を終えられて、神様の御もとで安らかにお過ごしと思いますが、現在の梅花を天よりご覧いただき少しはご安心いただいているのではないのでしょうか。

宗教部一年の歩み

コロナ禍の二年目、宗教部はチャペル・アワー(礼拝)を守ることに重点をおいて歩んだ。チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。ライブ配信の技術を用いてこの営みを学生とともにすることに全力を注いだ。

4月 聖書を読み祈る「オリブのつどい」

従来は講義期間中に教職員と学生のための「オリブのつどい」をお昼休みに宗教部事務室で開催してきたが、2021年度も新型コロナウイルス感染防止のために中止にした。

竹の子の販売

学内で収穫した竹の子の売上金は前期献金に充当した。



6月 青梅の収穫と販売

今年も、学内で収穫した青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。毎年、5月末から6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年は6月上旬に収穫した。売上金は、前期献金に充当した。



8月

止揚学園訪問

今年の止揚学園訪問は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

9月

本井先生から書籍のご寄贈

9月5日、元同志社大学教授の本井康博先生が、著書『同女の母』スタークウエザー同志社女学校の始まり』を学園に20冊ご寄贈下さった。澤山先生とスタークウエザーとの出会いについて言及されている。



看護学科開設10周年記念講演会

9月25日(土)に13時から16時まで澤山記念ホールにて看護学科開設10周年記念講演会が開催され動画配信された。宗教部は開会礼拝を担当した。奏楽は水間泉先生、司式は宗教主事の高田太先生、奨励は学長・宗教部長の長澤修一先生。大阪大学大学院教授の石黒浩先生のご講演があった。

11月 小梅祭「学生礼拝」

今年の「学生礼拝」は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

アドベント音楽礼拝

11月22日(月)13時からアドベント音楽礼拝を礼拝堂で開催した。奏楽は水間泉先生、司式は本学宗教主事の高田太先生。日本基督教団京都教区牧師の山本有紀先生が「闇の只中でも」と題してお話された。

アドベント点灯式

今年のアドベント点灯式は11月22日(月)16時30分から礼拝堂で開催し、動画配信した。奏楽は水間泉先生、司式は高田太先生。ツリー点灯は学園長の近藤十郎先生が担当された。聖書朗読は情報メディア学科3年の田中花音さんが担当し、学生有志の聖歌隊が参加した。

建学の精神プログラム教職員研修会



11月24日(水)16時20分から澤山記念ホールで2021年度の建学の精神プログラム教職員研修会を開催した。司会は職員の高田太先生が、「創立者澤山保羅―梅花学園キリスト教の基礎知識」と題してお話された。

12月 クリスマスマス礼拝

12月20日(月)13時から大学のクリスマス礼拝を礼拝堂で行った。奏楽は水間泉先生、司式は高田太先生。キャンドル点灯は日本文化学科1年の瀬川瑚



子さん、管理栄養学科1年の田島亜澄さんが担当した。聖書朗読は情報メディア学科3年の田中花音さんが担当し、学生有志の聖歌隊が参加した。日本基督教団近江金田教会牧師の横田明典先生から「ほえみ交わすクリスマス」と題して説教があった。

パンダ園訪問

今年のパンダ園のクリスマス会訪問は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

1月 創立144周年記念礼拝

1月18日(火)午前10時から澤山記念館礼拝堂で梅花学園創立144周年記念礼拝が開催された。学園長の近藤十郎先生から「老人は夢を見、若者は幻を見る」と題してお話があった。今年の澤山保羅先生墓前祈祷会は新型コロナウイルス感染防止のため中止になった。

3月 大学・大学院卒業礼拝

大学・大学院の卒業礼拝を3月15日(火)午前11時から、礼拝堂からライブ配信にて行う。対面参加も受け付ける。日本基督教団浪花教会牧師、梅花中学校聖書科非常勤講師の山口恒先生から「キリストの力」と題して説教を頂く予定である。

学園創立144周年

記念礼拝

2022年1月18日(火)午前10時
澤山記念館礼拝堂



2021年度

チャペル・アワー 感想文より



「チャペル・アワーへようこそ」

本学宗教主事 高田太先生
梅花女子大学の設立者が日本初の牧師であることにすごく驚きました。

キリスト教で女子を育てるという澤山保羅先生の夢をこれから先も継続させていくように、私たちの代もしっかりとチャペル・アワーに参加しないとダメだと改めて実感しました。オンラインでもオルガンの音色のすばらしさは伝わってきましたが、実際に聞くのはやはり違いが出てしまうと思うので、いずれオルガンを直接聞きに行きたいと思えました。国際人として世界の三分の一を占めるキリスト教について学ぶことは、必要不可欠だと思いましたが、キリスト教を学ぶことによって自分の中の考え方が変わることもあるかもしれないので、しっかりと勉強したいと思いました。自分にとって神とは何か。そのようなことはこれまでの人生で考えたこともありませんでした。人によって答えが違ってくる質問ですが、いずれ私は、私にとって神とはこういう存在だと胸を張って言えるように成長していきたいと思いました。今回のチャペル・アワーはオリエンテーションということでしたが、十分に興味深い内容だったので、来週からのチャペル・アワーが楽しみに感じました。

「見えないものに目を注ぐ」

本学園学園長 近藤十郎先生
目に見える世界は限定的であり、目に見えない世界は無限定という言葉に、少し「知らぬが仏」という言葉に似ているなと思いました。嫌な事で例えると、陰口を言われているも聞こえなければ何も嫌な気持ちにならない

「梅花の誇り」

日本基督教団南山教会牧師

村山盛芳先生

消極的な優しさという言葉にとても感銘を受けました。今まで「マタイによる福音書7章7節〜12節」は「自分がされて嫌だと思ふことはしない」と同じような内容で、言葉が違うだけで深く考えずに当たり前のことだと思っていました。しかし、その消極的な優しさが大半の日本人に沁みついていて、私を含めて沢山の人が納得し、キリスト教が馴染みやすいのかなと思いました。それに、高田先生が人の話を聞くことがいかに、ずっと前から思っていました。そういう心持ちで私から話の話を聞こうと思っています。

「創立者 澤山保羅の想い」

本学名誉教授 茂 義樹先生

玉置好徳先生

明治時代に武士の階級が廃止されて生活でなくなるかもしれないという現代の状況に似ていると思いませんか。澤山先生のように英語を学ぶために海外に行こうという行動力と決心は私達も真似しなければならぬと思います。私がなりたいと思う職業も無くなるとは限らないので、そのために他のキャリアや知識をつけることは無駄なことではないと思います。また、隣人愛のことを植物で例えた話がすごく分かりやすかったです。

「良き言葉こそが良き世界を生み出す」

本学日本文化学科長、教授

田中裕之先生

言葉は、神様が世界の創造に使われたり、

日本では言葉が宿ると言われたり、口は災いのもとなどことわざになっていたりするほど重要なものだと思っています。お話を聞きとても共感しました。普段から物事をよく見聞きし自らの振る舞いに気を配るという当たり前を意識し実行することは難しい事です。良くあるように努力し続けることはいいことだと思えます。大事にすべきだと思います。私も物事に少しでも関心を持ち、学び続けたいと思えます。

「わたしたちのライフライン」

日本基督教団大阪教会牧師

本庄侑子先生

ライフラインは整ってきているけれど確かに家族、国、世界はバラバラだと思えます。今回のお話を聞いてこの現状はウィルスのせいだけではないのだと思えました。命の大切さ、生きるということの大切さがよく分かりました。

「かんじんなことは、目に見えないんだよ」

本学情報メディア学科教授

玉置好徳先生

本日先生のお話を聞かせて頂き、見えるものは過ぎ去りますが目に見えないものは永遠に存続するという言葉が心に残りました。昔から両親に言われてきた言葉なのですが、悪口や陰口を言われた人間はずっと覚えていて、体にできた傷は治るけれど心に負った傷は永遠に治らない。見えるものは過ぎ去りますが目に見えないものは永遠に存続するという言葉を聞いた瞬間わたしは真つづこれを思い浮かべました。

「そしてだれもいなくなかった」

同志社大学

越川弘英先生

今回のお話の内容を、何度か見返して自分なりに考えてみました。無駄の基準は人それぞれだと思えますが、私は、人は誰しも誰かに助けられて生きていてと思っています。何



事にも無駄だと言いはじめたら、全て無駄と言えないのではないかと、とも思います。人に対して無駄という言葉は敬意がありません。誰に対しても敬意を持って人になりたいと思います。

「礼拝中の居眠り」

日本基督教団阿倍野教会牧師 山下壮起先生

最初、居眠りをしてしまったから罰が当たり落ちてしまったのだと思いき、自分のせいではないかと決めつけてしまった。自分のせいではほんの一部しか知らないからそう決めつけてしまっていた。たくさんの要因が考えられるし、彼のほかの面を考えようとはしなかった。勝手に何も知らずに決めつけてしまった。これからはほんの一部を見ただけで決めつけず、たくさんのことを考え、決めつけるのをやめようと思った。そして毎日の忙しさに休むのをうっかり忘れてしまいがちな日々をいつたん休んだら他の方法で考えられることもあるかもしれないので休むのも大切だと感じた。



「人生はジグソーパズル」

日本基督教団京都教会副牧師 入順子先生

私はよく、授業でもテストに関係ないところはあまり重要視せず、先生の話をそこまで集中して聞いていなかったのですが、今回のお話を聞いてそれは間違っていたと思えました。その時は役に立たなそうだな知識でも、いつか役立つときがくるかもしれないと思えました。知識は多ければ多いほどいいので、これからはしっかり聞こうと思います。また、人生の出来事全て無駄なものなどないのだと感じました。人生は目に見えないので判断が難しいけれど、これからどんなことが起きて、そして自分の人生に必要な経験だと思いい、前向きに考えたいです。

「大切にしてほしいこと」

本学企画グループ アシスタントマネージャー 上坊和史さん

上坊さんのお話にもありましたが私も人の意見を優先にして、争いをなくして平和に物事を進めようとしていました。自分の意見はしっかり持っているけれど、もし、周りの人と意見が合わなくてもめった時間がかかったりするの、時間の無駄だと考えてしまっていました。高校生になり、部活での立場が副部長になったことで自分が主となって活動するようになってからは自分の意見を言う場が増えました。自分の意見が周りと異なっても主張してみると、賛同してくれたり私の意見を元にさらに周りが良い物にしてくれたり、自分の意見を伝えることの大切さに気づきました。

「幸せを数えていく」

日本基督教団北千里教会牧師 宮岡真紀子先生

私もつい、ないものねだりをしてしまう事があるのですが、いつも過ぎ去った後や失ってから大切さやその時にしか感じられない楽しさに気づくので、最近「今は辛いこともあるけどそれだけじゃないな」と考えるようになりました。また「何の障がいもなくまっすぐ成長するのが良いのではなく、正しく迷うことが大切です」という言葉が心に響きました。

「キリスト教保育に導かれて」

日本基督教団高石教会役員 深見美砂緒先生

今回は、保育士を目指している私にとってとてもいい話でした。最後に愛の話をされていて、好きな人はあまり愛することが出来ないし、苦手な人はあまり愛することが出来ない。私はこの話を聞いて共感しました。でも、よく考えると保育士になったとき子どもたちが自分と気が合わないから愛せないだけではだかと思えました。これは、保育士だけでなく社会人になり、たくさんの人と出会って自

分の苦手な人でも愛することが大切だと思いました。

「生きる」

日本基督教団洛西教会牧師 柳井一朗先生

「自己犠牲」とまではいかないけれど、自分より他者のために積極的に行動してくれている人は本当にありがたい存在だと思います。自分で得たことを他者のために活用できるように周りに目を向けるのとともに、自分のために何かしてくれた人への感謝を忘れずに過ごしていこうと思いました。

「ぶりのほかり」

日本基督教団希望ヶ丘教会牧師 遠藤勇司先生

現在オリンピックが行われていますが、そんな中でも講師の先生がおっしゃっていた通り、表側ばかりが映し出され裏側はなかなか報道されることはありません。そして、裏側の部分を今の日本は放置しているのではと感じていたので、いいことはばかりではなく悪い部分も見つめなおし、社会のバランスを保つべきだと思いました。

「私のしてもらいたいことは、他の人のしてもらいたいこと？」

本学国際英語学科准教授 北村伊都子先生

たしかに北村先生がおっしゃっていたように、人それぞれ個性や考え方は違うため、自分自身がやってもらいたいことは必ずしも他人もそう思っているとは決めることは出来なく、一つの選択肢として考えることが重要だと感じました。そして自分自身が経験してないことを相手の立場になって考えることは、とても難しいけれど、北村先生と同じ、人と関わる仕事を目指すうえで今回のお話は勉強になりました。



「福音を信じる」

日本基督教団梅花教会牧師 後藤聡先生

神様を信じる時は、神頼みするしか術がない追い込まれた時なので、もしかしら神様を信じていない時は幸せなのではないかなと感じた。

「はた迷惑な人たち」

日本基督教団天満教会牧師 小西望先生

「人に迷惑をかける＝悪いこと」という暗黙の了解がある中で、それでもどうしようもなく迷惑になってしまふことはあると思います。そのときに、お世話になった方への感謝を忘れずどうすれば予防できたのかをはっきりさせて、次につなげていこうという心構えが大切なのだと思えました。自分が助ける側になったときも決しておごらず、いつかこの恩が自分にも返ってくるとして接することが大切なのだと思います。

「脳と聖書と私」

本学口腔保健学科教授、学生部長 深見秀之先生

様々な視点から聖書を見ることができるところを知り、より聖書について知りたいと思うようになりました。深見先生の困難が人生の転機になるといってお話を聞いて、人は生きるために強くなるのだなと学ぶことができました。今日の授業もありがとうございました。

「はじまりの問い」

日本基督教団京都教区牧師 山本有紀先生

一枚の絵に込められた情報量が多く、また聖書の言葉から状況を読み取って聞ける面白かったです。私は最初夫が5人と聞いて浮気してはいたのかと思いましたが、当時の状況はもっと過酷で、女性が想像以上に辛い思いをしていたので、浮気だと思ったことを申し訳なく感じました。最後に、自分が話していた男性がイエスだと知った女性は驚いて目を見開いた後、喜びで涙を流したのではないかと

と私は思いました。

「居場所ってどこ？ 居場所って何？」

日本基督教団神戸イエス回教会牧師
上内鏡子先生

私の居場所は自分の家かなと思っ
たが、学校も自分の居場所である
なとも思いました。人それぞれだ
と感じました。自身が、それが
居場所だと感じたのであれば、
そこが「私」としての「居場所」
であると私は思います。

「意志や努力ではなく」

日本基督教団神戸雲内教会牧師
本岡優太先生

自分が成功するには確かに運や
環境、タイミングはとても重要
なものになってくると思います
が、その運に出会う確率を上げ
るためには自分自身で積極的に
行動しないといけないし、それ
が成功へと繋がる手段ではない
のかと私は思いました。

「人はみんなつながっている」

本学こども教育学科教授、
教育・研究支援センター長

井元真澄先生

今日のお話を聞いて思ったこと
は、自身の行動言動を振り返る
うということだと思います。差
別について考えるときは、決ま
って事前に差別について話を聞
いて聞いています。差別に関わ
る話を聞くたびに、差別はいけ
ないことだと主張されます。私
は常に差別について考えてい
る訳ではありませんが、お話を
聞くことと私も差別は良くない
ことだとも思います。しかし、
異なることはいけません。犬や
猫、その他の獣ですらも、弱い
個体は自然界で淘汰され、そ
して強い個体はより環境に適
した進化を続けてきました。人
間は獣とはちがひ、理性と感情
によって命を生かそうと行動し
ます。しかし、差別が最も表出
する行動はいじめであり、人間
社会の差別によるいじめは進
化前のようなものであると聞
いたことがありますが、自身より
絶対的に立場が弱いものに現
在の不満をぶつけている説もあ
りました。違ふということとは
怖いこと、怖いのは自身に

とって危険なのか、また不利に
ならないか分からないからだと
どこかで読みました。未知の
こと、理解できないことをヒト
は嫌います。なので、身の回り
で差別を少しでも無くそうと思
えるのであれば、相互理解が不
可欠と考えます。常に自らの行
動を客観的に見ることができ
る人はすごいと思います。人
自身がどのように見られている
かを考え、行動するということ
は、不理解を軽減できると思
うからです。私は良くも悪くも
とつさに行動してしまふことが
多いです。自身の行動や言動に
は気をつけたいと思います。

「闇の只中で」

日本基督教団京都教区牧師
山本有紀先生

聖書にある物語や教えだけで
なく人々が祈りや悲しみ、希
望を詩や絵画に残すことで、
時代を超えて闇の間を繋ぎ、
支えあうことができるのだと
芸術とキリスト教の結びつき
を感じることができました。ま
た、様々な行事やその中で使
うものに意味や祈りが込めら
れているのを知り、それによ
つて祈りや考えをより自分
の中に落とし込むことができ
ることがわかりました。

「タビテは力のかぎり踊った。」

日本基督教団千里聖愛教会牧師
中島正勝先生

この頃から音楽療法があった
ことに一番驚きました。そして
愛は形で見えないため、愛
とは何か考える上でとても良
い意見を聞くことができました。

「投票に行くことにした」

日本基督教団尼崎教会牧師
榎田翔希先生

性別役割があることで男女差
別の役割が生まれてしまふと
考えていましたが、自分の生
まれにやりがいを持っている
方ももちろんいるし、自分の
価値観だけで判断することは
良くないと気づきました。選
挙に関してはまだ経験不足
ですが、社会の流れに取り残
されないように自分の意思を
尊重できるようにしておこう

思います。

「命の儂さ、花は語る」

日本基督教団南大阪教会牧師
尾島信之先生

今日の話聞いて、辛い出来事
が起きてよくよせずに経験だ
と思ってるやることが大切
だと思えました。私は、つい
明日のことばかり考えてしま
います。「明日になったらど
んなことが起こるのかな」
や「明日になるのは嫌だ」な
ど先のことばかり考えます。
も話を聞いて、明日のこと
ばかり考えるのではなく、今
ある時間があるのなら、今
ある課題にしっかりと取り組
むことが大切だとわかりまし
た。明日のことなんて神様し
か分からない。だから、今
あることに全力で取り組もう
と思いま

「ほほえみ交わすクリスマス」

日本基督教団近江金田教会牧師
横田明典先生

クリスマスは、イエス・キ
リスト様が生まれた日です。
みんながパーティーをして
楽しむのと同じく今まで思
っていませんでした。しかし
、今日の話聞いて、何回も裏
切っている人間に、見捨て
ずに愛し続けてくださる神
様にも感謝をする日という
ことを初めて知りました。よ
く考えれば、私も自分の実
力で何とかする時は神様
には頼らない、でも自分が
追い込まれてもできなくな
った時は、どうしても神
様に頼ってしまう自分が
います。でも、神様は見
捨てずに私たちをいつも
空から見つめてくださって
いる。だから、感謝する
ことが大切だと気づくこ
とが出来ました。

「それでおしまいではない」

日本基督教団高石教会牧師
一木千鶴子先生

神を信じていることすべて
が良い方向に進むのでは
なく、神からは様々な壁
を与えられ苦しむこともあ
るが、苦しみだけではな
くその先の未来があるのだ
と勇気を与えてくれたのだ
と感じました。

「1/100ではなく1000/100」

日本基督教団河内天美教会牧師
今井このみ先生

大人からでは気にも留めない
ことを、また汚い、まさか
…と思うようなことでも、
子供たちからしたら毎日キ
ラキラの日々であり、素
朴な疑問がまた私たち
まで気づかせてくれる。
自分の大切なもの、これ
じゃなきゃダメなもの。
大人に近づくと忘れそう
なることを忘れず毎日
が新たな発見だと感じら
れるのはすてきな事だ
と思ひました。事実を
知らずに見たままの事
だけを信じて、本当の
隠れている真実を見
ないで見破れず誤診、
冤罪を招くこともあり
ます。私も誤解をした
まま信じて暗晦になっ
たこともあり。また嘘は
絶対についてはいけ
ないと思ひます。それ
で人の人生をめちゃ
くちゃにするのもあ
るから。私は、素直に
話すのが平和の鍵だ
と思ひます。羊飼
いのお話を聞いて、
私も今井先生と同じ
様に思ひました。中
身を聞くこと、それ
に反対に一匹を連れ
戻して100匹にする
事を選択します。そ
れにこの羊を自分
だと置き換えると、
すごく怖いし、さ
みしいし、孤独だ
と思ひました。ま
た、自分に代わり
はいないこと、自
分は自分しかいな
いことが心に響
きました。しかし、
私は今、社会の中
で正にどこに
いるか分からない、
独りぼっち、自
分なんて…とい
う状況にいます。
ですが、家族が
います。家族
なら私を待って
くれます。心配
してくれます。
そんな家族を
悲しませない
ために、これ
からも生き
続けたいし、
今の成長を
止められ
ないような
場所から
抜け出し
て、自分の
ためになる
事を、自分
のしたいこ
とを思い切
てできるように、
勇気を出
して飛び
出したい
です。まだ
まだ私の
生きる道
は長いので、
やりたい事、
頑張りたい
こと、興
味のあ
ること、
色々な
事にチャ
レンジ
したい
です。



2021年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月	日	奨 励 題	略 歴	奨 励 者
4	19	チャペル・アワーへようこそ	梅花学園宗教主事	高田 太
	26	見えないものに目を注ぐ	梅花学園学園長	近藤 十郎
5	10	梅花の誇り	日本基督教団南山教会牧師	村山 盛芳
	17	創立者澤山保羅の想い	本学名誉教授	茂 義樹
	22	良き言葉こそが良き世界を生み出す	本学日本文化学科長 日本文化学科教授	田中 裕之
	24	わたしたちのライフライン	日本基督教団大阪教会牧師	本庄 侑子
	31	かんじんなことは、目に見えないんだよ	本学情報メディア学科教授	玉置 好徳
6	7	そしてだれもいなくなった	同志社大学キリスト教文化センター教授	越川 弘英
	14	礼拝中の居眠り	日本基督教団阿倍野教会牧師	山下 壮起
	21	人生はジグソーパズル	日本基督教団京都教会副牧師	入 順子
	28	大切にしてほしいこと	本学企画部企画グループ アシスタントマネージャー	上坊 和史
7	5	幸せを数えていこう	日本基督教団北千里教会牧師	宮岡 真紀子
	12	キリスト教保育に導かれて	日本基督教団高石教会役員	深見 美砂緒
	19	生きる	日本基督教団洛西教会牧師	柳井 一朗
	26	ふりこのはかり	日本基督教団希望ヶ丘教会牧師 梅花高校聖書科非常勤講師	遠藤 勇司
9	27	私のしてもらいたいことは、他の人のしてもらいたいこと?	本学国際英語学科准教授	北村 伊都子
10	4	福音を信じる	日本基督教団梅花教会牧師	後藤 聡
	11	はた迷惑な人たち	日本基督教団天満教会牧師	小西 望
	18	脳と聖書と私	本学口腔保健学科教授、学生部長	深見 秀之
	25	はじまりの問い	日本基督教団京都教区牧師	山本 有紀
11	1	居場所ってどこ?居場所って何?	日本基督教団神戸イエス団教会牧師	上内 鏡子
	8	意志や努力ではなく	日本基督教団神戸雲内教会牧師	本間 優太
	15	人はみんなつながっている	本学こども教育学科教授 教育・研究支援センター長	井元 真澄
	22	闇の只中でも	日本基督教団京都教区牧師	山本 有紀
	29	ダビデは力のかぎり踊った。	日本基督教団千里聖愛教会牧師	中島 正勝
12	6	投票に行くことにした	日本基督教団尼崎教会牧師	榎田 翔希
	13	命の儚さ、花は語る	日本基督教団南大阪教会牧師	尾島 信之
	20	ほほえみ ^か 交わすクリスマス	日本基督教団近江金田教会牧師 日本基督教団京都教区副議長	横田 明典
1	17	それでおしまいではない	日本基督教団高石教会牧師	一木 千鶴子
	24	1/100ではなく100/100	日本基督教団河内天美教会牧師	今井 このみ

宗教部編集後記

今年も新しい扉が開かれ、2022年が始まりました。

2021年度も新型コロナウイルス感染症防止のためにチャペル・アワーは澤山記念館礼拝堂からリモート・ライブ配信の形で行い、多くの学生・教職員の祈りに支えられて無事に終了することができました。

2021年度には次の年間聖句の御言葉が与えられました。「わたしたちは目に見えないものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」(コリントの信徒への手紙二4章18節)、チャペル・アワーの最初に学生・教職員と共にこの聖句を確認し、心に刻みながら、歩んでまいりました。

茨木ガーデンキャンパスの紅白の梅や蠟梅が満開の中、今年も皆さまのご協力により「チャペル・ニュース」第18号を発行することが出来ましたことを心から感謝いたします。

そして、2021年度の終わりに宗教部から「Around the Chapel Divine | 建学の精神奨励・講演集2021」を刊行いたします。「何事にも時がある」ことを覚え、この灯火が次の世代に受け継がれることを願って編集いたしました。

2022年度も神様のお守りの中で実り豊かな「主の年」になればと思います。(〇)